

富士通エフサス

CSR Report

2016

FUJITSU



shaping tomorrow with you

社会とお客様の豊かな未来のために

株式会社富士通エフサス

CSR Report 目次

Top Message	1
CSR の取り組み方針と重要課題	2
■ 富士通エフサスの CSR への取り組み方針	
■ CSR 委員長のメッセージ	
■ 富士通エフサスの 5 つの重要課題	
I. ICT による安心の提供と新たな価値提供	4
1. サービス体制	2. 富士通エフサスグループ
3. お客様、社会との共創	4. 社会課題を ICT で解決
II. 社会に貢献する人財の育成	13
1. お客様・社会の変革にチャレンジする人財の育成	
2. 未来に伝えるべきエフサス DNA の継承	
III. ダイバーシティ&インクルージョン(多様性の受容と促進)	15
1. 人権推進	2. 女性の活躍推進
3. 障がい者雇用の拡大と活躍への支援	4. 内なるグローバル化
IV. 地球環境への対応	17
1. 環境マネジメント	2. 環境教育
3. 環境活動の実績	
V. ステークホルダーとの対話と協力	20
1. お取引先と共に	2. 国際・地域社会と共に
マネジメント	26
I. コーポレート・ガバナンス	
II. コンプライアンス	
III. リスクマネジメント	
IV. 情報セキュリティ	
V. 自社の事業継続マネジメント活動	



株式会社富士通エフサス
代表取締役社長 高萩 弘

ICT の力により、持続可能な社会の実現に貢献

富士通グループは、「ICT の力」によって、持続可能な地球と社会の実現に貢献すること、デジタル社会の安心・安全を維持・強化していくことをグローバル ICT 企業としての社会的責任と考えています。

その前提として、ICTシステムが日々安定的に運用されることが不可欠であり、当社は、富士通グループの一員として、ICT インフラを支えることで、お客様の成長、社会の発展に貢献してまいりました。

ICT の進化が、社会課題を解決する

ICT は、私たちの日常生活からビジネス、そして社会の隅々まで浸透しており、「クラウド」「IoT」「AI」など最新の ICT の活用により、新たな価値を創造することが可能となります。

私はこれらのデジタル革新により、時に国境を超えて、ヒト、モノ、そして様々なシステムをつなげることで、お客様のビジネス上の課題はもとより、農業の生産性向上、少子高齢化といった国内の社会課題、さらには地球規模の気候変動や自然災害、人口増に伴う食糧や水、エネルギー不足などのグローバルな社会課題の解決に貢献すると信じています。

また、近年、地震および水害などの自然災害の脅威により、防災・減災の重要性が高まっています。私たちは、社内実践により蓄積した知見や、最新の IoT 技術を駆使して、お客様事業および社会の継続に貢献してまいります。

そのためには、全国のお客様に寄り添い、お客様との「共創」によるイノベーションが不可欠です。私たちは、従来の枠を越えた様々なコラボレーションを行い、多くの人々とともに、ICT の力を活用して様々な社会課題に取り組み、その解決を目指してまいりたいと思います。また最近、世界各国でサイバー攻撃が問題になっていますが、セキュリティ技術を継続的に強化し、ICT をより安全に使えるようにすることも当社の使命と考えています。

人財育成、ダイバーシティ活動をさらに強化

ビジネス課題、社会課題を解決する上で、「人財」の育成が何より重要です。当社は、従来より高品質・高付加価値なサービスをデザインし提供出来る高度な「技術力」と、お客様の立場で真の課題を引き出し、お客様とともに解決していくことができる総合的な「人間力」の涵養に注力してまいりました。また人財の成長とイノベーションを加速させる場として、横浜を皮切りに、銀座、大阪に「Innovation & Future Center」を開設し、様々なお客様、業界団体、有識者との対話やコラボレーションを始めています。

さらに、ダイバーシティ活動にも力を入れており、女性や障がい者、グローバル人材の活用にも積極的に取り組み、多様な価値観の融合による新たな「知恵」「技術」の創出を推進しています。

お客様との共創により、変革を加速

当社は、富士通グループの理念・指針である「FUJITSU Way」に基づき、ISO26000の枠組みを活用して、CSRへの取り組みを強化しております。

私たち富士通エフサスは、「No.1 Service Front Company」を掲げ、現場力(技術力)とお客様との共創により、変革を加速させることで、持続可能な社会の実現と地球環境の次世代への継承に努めてまいります。

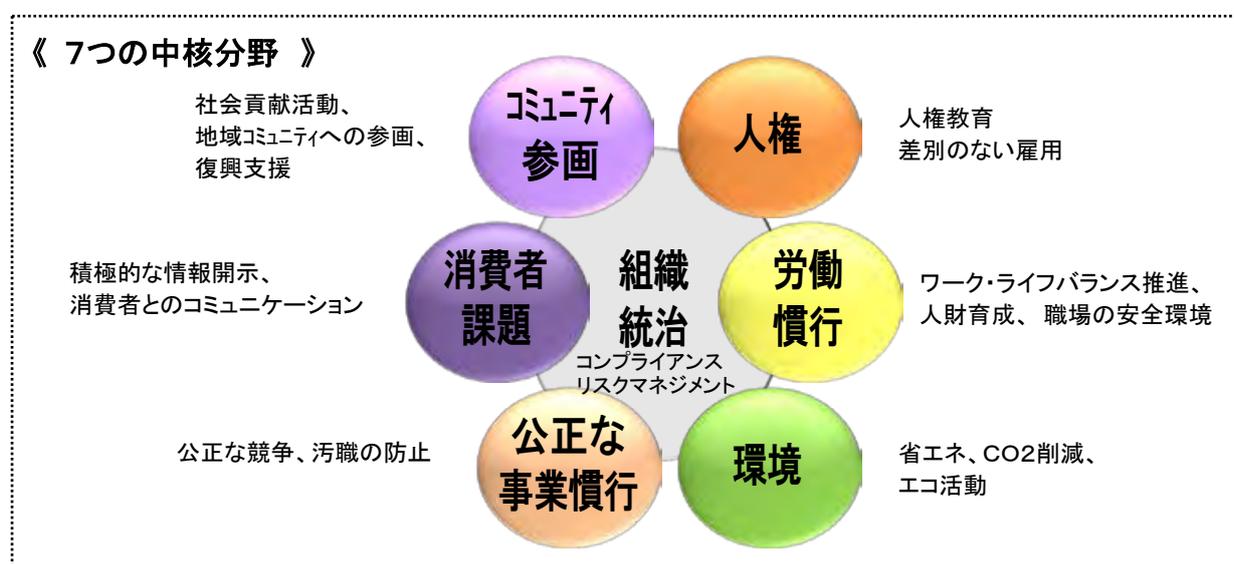
CSRの取り組み方針と重要課題

■富士通エフサスの CSR への取り組み方針

当社の CSR は、富士通グループの理念・指針である FUJITSU Way の実践です。すべての活動において、FUJITSU Way を実践することで、地球と社会の持続可能な発展へ貢献してまいります。また、実践においては、社会的責任の国際規格である「ISO26000」に準拠した「7つの中核分野」への取り組みを強化しております。

推進体制につきましては、「CSR 委員会」において取締役執行役員常務を委員長として、計画目標を策定した上で、新たな社会貢献や持続的な社会ビジネスを推進し、取締役会・経営会議の場で定期的に CSR の取り組みのレビューを実施いたします。

また、富士通エフサスグループの関係会社 9 社とも方針の共有と社員への浸透を図り、グループ全体で持続可能な社会への更なる貢献に努めております。



■富士通エフサスの5つの重要課題

当社は、CSR への取り組み方針に基づき、「7つの中核分野」から下記の「5つの重要課題」を設定しました。これらの課題への重点的な取り組みを通じて、私たち自身が良き企業市民として成長することを目指しております。

- 重要課題 1 ICT による安心の提供と新たな価値創造
- 重要課題 2 社会に貢献する人財の育成
- 重要課題 3 ダイバーシティ&インクルージョン（多様性の受容と促進）
- 重要課題 4 地球環境への対応
- 重要課題 5 ステークホルダーとの対話と協力

■ CSR 委員長のメッセージ

富士通エフサスにおける CSR の位置づけ



CSR 委員長
取締役 執行役員常務
中野 隆

当社は、従来の ICT インフラを中心とするサービスにとどまらない、新領域でのビジネスを目指しています。私たちには、お客様に寄り添い、ともに課題を見つけ、お客様のみならず、国や自治体、他の企業などと連携し、その解決に向け、「共創」していくことが求められています。お客様の継続的な発展のためには、私たちが常に社会との関係を意識した上で、世の中を俯瞰し、ICT をベースに人々と「つながる」「つなげる」ことが不可欠です。そのことが、ひいては、日本の少子高齢化や都市への一極集中、エネルギー問題、医療、食・農業などの社会的な課題の解決にもつながると考えています。

CSR の取り組みは、当社にとって、社会から愛される会社になるために、最も重要な経営事項の一つです。

CSR を支える「人財」と「場」

社会課題の解決に向け、何より「人財」の育成が重要です。当社は、「人間成長の経営」を人材育成の理念とし、社員の成長を支援し、高い目標にチャレンジする組織風土を実現しています。個人の技術力・専門性を高めるための研修を幅広く展開し、お客様のいかなる要望にもお応えできるよう外部ベンダーの高度資格取得を推進するとともに、システム的设计・運用などのマルチスキルの専門家としての「サービスマネージャー」認定制度では、現在 181 名を育成しました。また、お客様資産のセキュリティ脅威への対応として、セキュリティ技術者である「セキュリティホームドクター」を 500 名育成し、お客様に寄り添った対応を実践します。

ダイバーシティ推進では、女性活躍に力を入れ、女性ビジネスリーダー育成に向けた WLP* を継続実施するとともに、「在宅勤務」運用の開始など、女性および周囲の意識改革を強力に推進しています。また、障がい者雇用では、富士通エフサス太陽株式会社を含め、積極的に採用しています。

さらに当社は、2013 年 6 月に「みなとみらい Innovation & Future Center」を開設しました。これまで延べ 1 万 7 千人の社外の方々をお招きし、約 700 回のワークショップを開催しました。お客様や官公庁・自治体、大学、NPO など様々な方々と対話することで、新たなアイデアを引き出し、共創を重ね、新たな価値 = イノベーション を生み出す「場」として定着したと自負しています。その共創の「場」も、みなとみらい、銀座、大阪の 3 拠点に加え、北海道地区と関越地区の事業所内に新たにオープンしました。

WLP* = Women's Leadership Program

地域・国際社会への貢献

当社は、富士通エフサス労働組合とともにラオスの小学校教育支援に取り組んでいます。昨年、当社創立 25 周年記念事業として、ラオス（カムアン県カムアン村）に新たに中学校を建設し、2015 年 7 月に竣工しました。日本企業による中学校の建設は初めてのことで、2015 年 11 月に寄贈式を行い、現地で大歓迎を受けました。また、中国内モンゴル自治区における砂漠地への植林活動にも参加するなど、地球環境保全にも取り組んでいます。

また、東日本大震災復興支援活動として、桜並木植樹および復興支援コンサートへの協賛や、新入社員による復興未来プログラムの実施、さらに、横浜市・川崎市などの芸術やスポーツイベントへの協賛、地域イベントなどに参画し、積極的に地域コミュニティとの交流を図っています。

当社は、これらの取り組みを通じて、先進 ICT の利活用を前提に、当社の多様な人財が、お客様や社会の成長・発展を支え、持続可能な社会の実現に貢献していきたいと考えています。

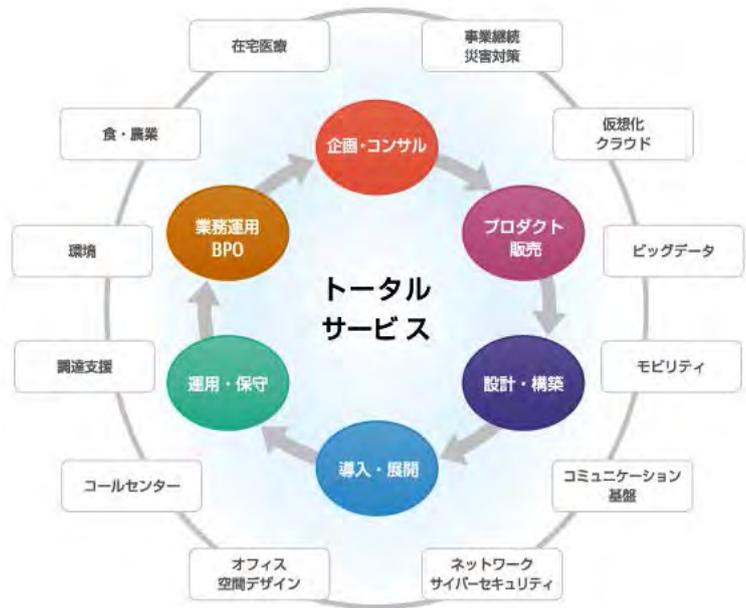
I. ICT による安心の提供と新たな価値提供

当社は、お客様の ICT 環境の「安心・安全・安定」を提供するとともに、ICT を様々なシーンで活用することによって導かれる新たな価値創造を提案いたします。

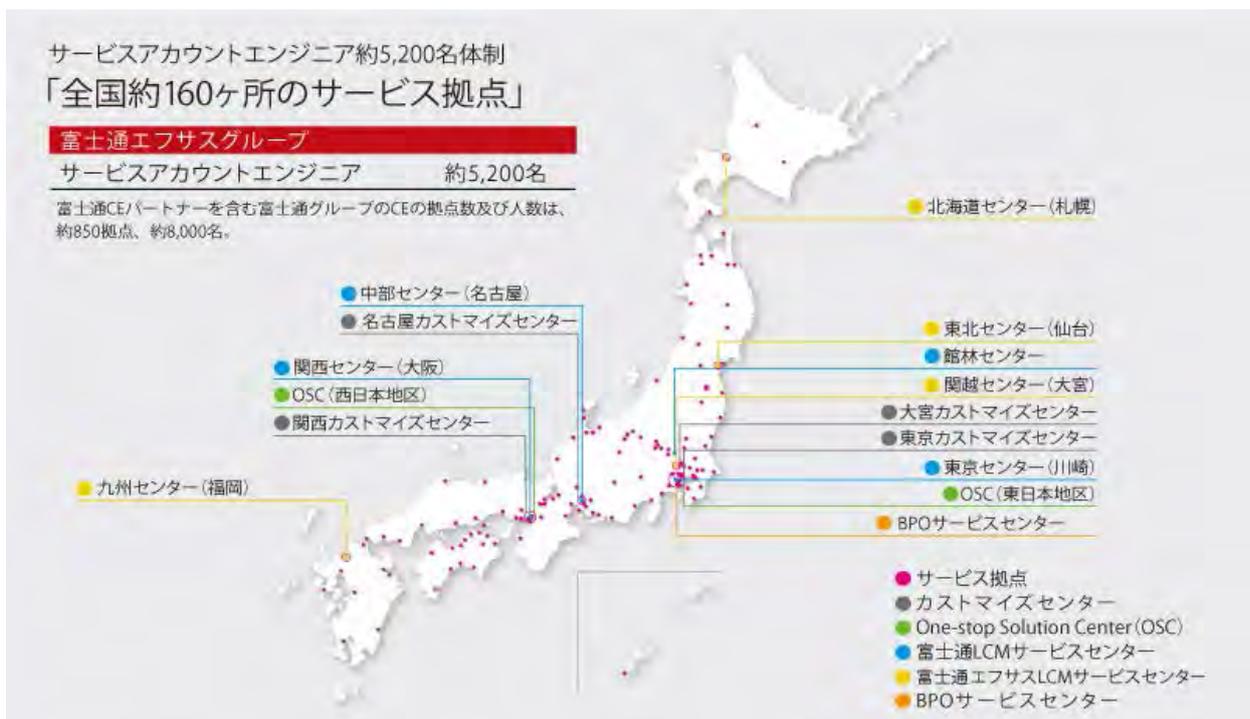
当社は、全国の約 160 ケ所のサービス拠点とサービスアカウントエンジニア約 5,200 名の日本国内最高レベルのサービス体制で日々お客様の ICT システムを支えています。

お客様の ICT システム最適化に向け、クラウド、セキュリティ、ビッグデータ、IoT（Internet of Things）、モバイル、ソーシャルなどの最新の技術動向、さらにはマルチベンダーな環境を前提に、上流の企画・コンサルティングから、ハードウェア・ソフトウェアなどプロダクトの販売、システム的设计・構築、導入・展開、運用・保守にいたるまで、ICT システムのライフサイクル全般を社員一人一人がトータルにサポートしております。お客様・社会へ安心かつ快適な ICT 環境を提供することを第一にとらえ、24 時間 365 日、スピーディーかつ高品質にサービスアカウントエンジニア（SAE）がトラブル未然回避のための高度な提案活動（コンテンジェンシープラン：危機管理計画）にも取り組み、お客様のシステムを支えています。

また、ICT を社会の様々な分野で積極的に活用することを提案し、在宅医療の現場、食・農業の現場での活用、さらにはオフィスワーカーのワークスタイル変革など、「お客様への価値創造」を図ってまいります。



1. サービス体制



- **富士通 LCM サービスセンター** ～業界初の「AA+is」を取得、お客様の ICT システムの「運用」を支えます～
「富士通 LCM サービスセンター」は、富士通と共同で全国 4 ヶ所（東京、中部、関西、館林）に地域密着にてお客様システムの 24 時間 365 日リモート監視やシステムトラブル時の問題解決支援などを行っております。また、東京はコールセンター業務ではトップとなる業界初の「AA+is」の格付を取得。
- **OSC (One-stop Solution Center)** ～お客様の ICT システムの「トラブル」に対応します～
サーバ、ストレージから OS、各種ミドルウェア、ネットワーク機器まで、システムを構成する多様な製品を「OSC」が一括対応。24 時間 365 日対応で、お客様から電話やメール、自動通報により受け付けた問題を、全国の SAE と迅速に連携して問題解決にあたります。
- **BPO サービスセンター** ～お客様の様々な業務に対応します～
パソコンの個人ユーザー向け問い合わせ・修理受付業務、企業・団体の問い合わせ業務を行っております。
- **カスタマイズセンター** ～お客様への ICT 機器の導入・展開を支えます（全国 4 ヶ所）～
パソコン、POS、ネットワーク機器などのシステム導入を行います。富士通インフラテクノロジーセンターと連携し、高品質かつ短期間で、小規模から大規模案件までキッティング・展開サービスを提供しております。

2. 富士通エフサスグループ

富士通エフサスとグループ会社 9 社の 6,576 名（2016 年 6 月 20 日現在）の社員が、安心力と創造力で ICT をコアとした「トータルサービス」を提供しております。

- ① 富士通エフサス・カスタムサービス株式会社 : 首都圏・九州地域における ICT システムの構築・運用・保守
- ② 富士通エフサス東日本カスタムサービス株式会社 : 東日本地域における ICT システムの構築・運用・保守
- ③ 富士通エフサス東海カスタムサービス株式会社 : 東海地域における ICT システムの構築・運用・保守
- ④ 富士通エフサス北陸カスタムサービス株式会社 : 北陸地域における ICT システムの構築・運用・保守
- ⑤ 富士通エフサス関西カスタムサービス株式会社 : 関西地域における ICT システムの構築・運用・保守
- ⑥ 富士通エフサス四国カスタムサービス株式会社 : 四国地域における ICT システムの構築・運用・保守
- ⑦ 富士通エフサス・クリエ株式会社 : ICT 関連業務を中心とする人材派遣、請負、人材紹介サービス
- ⑧ 富士通エフサス・システムズ株式会社 : ICT システムの構築・開発・運用
- ⑨ 富士通エフサス太陽株式会社 : 障がい者の社会参加と自立支援を目的とした、ATM・パソコン・プリンタのリペア、システム運用、マニュアル電子化

3. お客様、社会との共創

当社は、イノベティブな人財の育成と、お客様・社会との対話とコラボレーションを広げる場として 2013 年 6 月に「みなとみらい Innovation & Future Center」(横浜みなとみらい)を開設し、8 月に「Tokyo Innovation Lounge」(東京都中央区)を開設、10 月には「Osaka Knowledge Wharf」(大阪府大阪市)をフューチャーセンターとして開設しました。「みなとみらい Innovation & Future Center」は全国をカバーするオープンイノベーションの中核拠点として位置付け、そのサテライトとして「銀座」で首都圏を、「大阪」で西日本をサポートします。またそれぞれを人と ICT でつなぐことで、空間を超えて、お客様、さらには各地域の有識者、ステークホルダーとの対話が可能となり、「集合知」による課題解決を実現します。

2014 年 11 月には、社内外の知的創造活動を高める空間として東日本本部(大宮)、北海道支社(札幌)に「価値創造オフィス」を展開しました。さらに、当社は「Future Center Alliance of Japan(FCAJ)」に加盟し、海外のフューチャーセンターとも連携することで、グローバルなネットワークを活用し、グローバル企業、さらには環境、エネルギーなどの世界共通の課題解決にも取り組んでおります。

●みなとみらい Innovation & Future Center

オープンイノベーションの中核拠点として「研修センター」と「フューチャーセンター」を融合した知識創造空間。現場起点のイノベーションを実践する人財の育成、社内外の多様な人々との対話とコラボレーション、創造をカタチにするプロトタイピング活動を有機的に展開し、お客様とともに豊かな未来を共創いたします。



横浜市
延床面積 約 3,800 m²

関連リンク：

[みなとみらい Innovation & Future Center](#)

●Osaka Knowledge Wharf



西日本をカバーする
サテライト拠点
マライト OBP ビル 10 階
(大阪市)
延床面積 544 m²

●Tokyo Innovation Lounge



首都圏地区のサテライト拠点
銀座 G-7 ビルディング 5 階 (東京都中央区)
延床面積 255 m²

●東日本本部 Dialog Space



関越地区の共創型オフィス (さいたま市)

●北海道支社 Dialog Space



北海道地区の共創型オフィス (札幌市)

4. 社会課題を ICT で解決

(1)安全の提供

① お客様システムを災害から守る

富士通グループでは、災害発生時に「お客様復旧体対策本部」を立ち上げ、全国から招集したエンジニアが被災地のお客様情報システムの復旧を行います。災害時のお客様システム復旧から学んだ知識を、お客様の防災対策として活かしていただきたく、9月1日「防災の日」に先立つ6月から8月を「災害対策キャンペーン」期間とし、お客様と一緒にお客様情報システムの対策状況を確認する「診断チェック」や、「災害対策関連ノウハウ」のご提供」を毎年継続しています。地域に密着し、日々のお客様のシステムご利用状況を熟知している担当エンジニアならではの視点で、より身近ですぐに取り組める予防策のご案内を心がけています。



また、毎年「防災の日」には、災害に即時対応できるようさまざまなケースを想定した防災訓練を、お客様にもご参加いただいた上で、富士通グループ一体となって実施しています。2016年度は長野県の「信濃毎日新聞株式会社様」、富山県の「北電情報システムサービス株式会社様」にご協力いただき、復旧要員の緊急出動、障害状況の確認・判断、保守部品の緊急輸送などの訓練を実施しました。



② 地域住民を守る安心・安全なサービスの提供

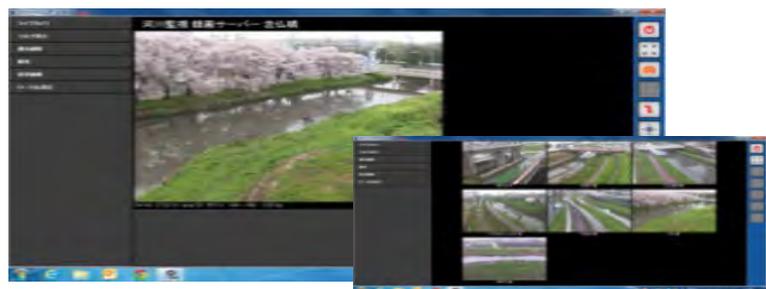
■ 災害対策や河川などの状況観測に IoT 技術の活用で安心・安全を支援

東日本大震災・熊本地震をはじめとする大規模な災害や、これまでに経験したことのないような集中豪雨の発生などから、人々の防災・減災の関心が高まっています。

当社は、お客様の確認したい状況や情報、場所に応じて最適なセンサーを組み合わせた「多種多様なデータの情報管理」や、IoT (Internet of Things) 技術を活用し、スマートデバイスなどから「リアルタイムでの閲覧」を実現する「FUJITSU Infrastructure System Integration 観測支援システム導入・運用サービス」を提供し、人々の住環境の安心・安全を支援しています。



観測局 設置例



監視局 監視画面例

■ 地域住民への安全・安心を提供する放射線量測定支援

東日本大震災では、放射線物質が大量に放出されたことで、周辺への放射線の影響が懸念され、放射線物質が付着した土や芝草などを取り除く除染を行い、仮置き場をどこに保管するか、どのように管理するのかが大きな課題でした。

当社が提供する「放射線量測定支援サービス」(DRdog: Detect Radiation Dog)では、空間放射線量のリアルタイムな測定や測定値の蓄積が行え、仮置き場の放射線量を地域住民へ開示することで、放射線量への不安を解消し、安全・安心に貢献いたします。



DRdog 設置例

■ ポータブル情報提供システム

震災などによる停電の際、自治体から地域住民へ正確な情報を広域かつ迅速に提供する仕組みが課題でした。噂や間違った情報の流布による混乱を避けるため、行政からの正確な情報提供は非常に重要な役割を担っています。しかしながら災害に特化したシステムはコスト面で導入が進まない傾向にあることから、平時でも活用出来るシステムが要望されていました。

当社は被災された自治体と共同で実証実験を行い、デジタルサイネージを用いた「ポータブル情報提供システム」を開発しました。平時は地域の観光・イベント情報を配信。災害時は被災状況や避難者名簿などの情報発信に加え、持ち運びしやすいケースにラジオや携帯充電用バッテリーなども搭載し、広域かつ迅速に地域住民の安心・安全に貢献いたします。



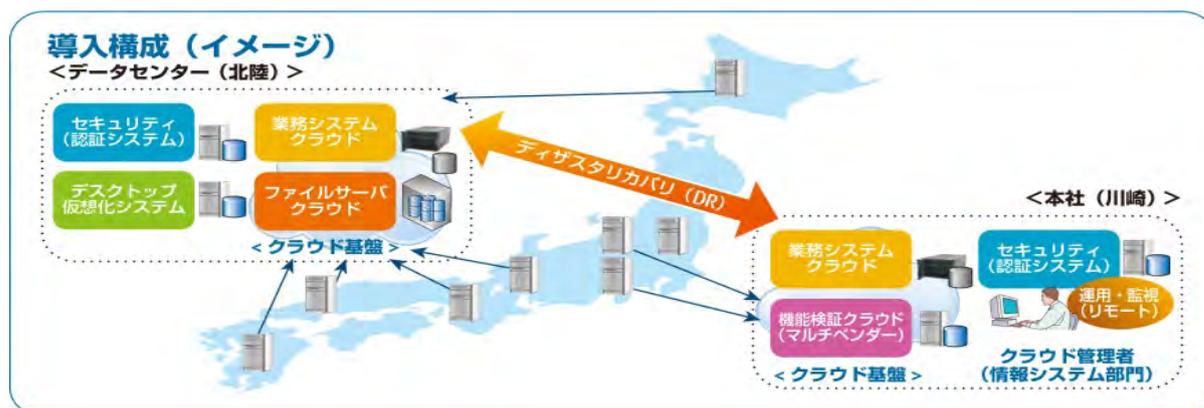
③ 企業としての事業継続／災害復旧に向けた取り組み

■ 東日本大震災時に当社で実践した災害対策手法の提案

東日本大震災を機に、企業の事業継続／災害復旧のあり方が改めて問われています。

当社は、本社移転の際に川崎本社と他県のデータセンターの 2 拠点にプライベートクラウドを構築し、退避先のデータセンターを短時間で稼働させる仕組みを採用することで、東日本大震災時は ICT インフラへの影響を最小限に抑えられました。

当社では、社内実践や豊富な構築・運用のノウハウを活用し、高品質・安価・短納期でクラウド基盤を構築、お客様に最適なプライベートクラウド環境を提供します。



(2)社会課題の解決

① ICTによるワーク・ライフ・バランスを促進

日本では週 49 時間以上働く長時間労働者が 21.6%にものぼります。これは、主要国でワースト 1 であり、ワーク・ライフ・バランスを求める社会の声は日々高まり、政府の「働き方改革」でも長時間労働の是正が大きく取り上げられ、大手商社・製造業をはじめ公的機関に至るまで残業を原則禁止するなどの動きが活発化しています。一方で、サービス残業は社会的問題として依然残り、労働基準監督署の監督指導も年々強化されています。

当社の「FUJITSU Business Application 長時間残業抑止ソリューション」では、PC 利用者へのポップアップメッセージや強制シャットダウンの仕組みを用いて、事前申請の無い残業の抑止や、テレワーク時の労働時間管理が行えます。導入されたお客様からは「残業時間を抑止できるうえ、個人個人が時間を意識して業務を効率的に進める意識が生まれた」「上司への残業申請で、上司-部下の間でコミュニケーションが増えた」など多数のお声をいただいております。豊かなライフスタイルの促進に貢献しています。



② プレイに合わせたワークスタイルを提案

日本経済はアベノミクスにより好転し始め、少子高齢化の進展による労働力人口の急激な減少は、社会の成長を阻む喫緊の課題で、そのような社会的課題に対し、テレワークなどの ICT 活用による労働生産性の向上や高齢者・女性・外国人など多種多様な労働力が参加できる働きやすい職場づくりが必要といえます。

当社では、「ICT」と「空間デザイン」の融合による業種共通のワークプレイス「オフィス」を基点に「コールセンター」や「店舗」など、様々な業種・業務に対してワークスタイルビジョンの策定からワークプレイスの企画・設計、構築、運用・保守の一連のライフサイクルをワンストップで提供し、お客様に合ったワークスタイルを共創する「まるごとイノベーション」シリーズを体系化いたしました。「オフィスまるごとイノベーション」では、当社で実践したワークスタイル変革の取組をもとに、デスクワーク、ミーティング、モバイルなどの各業務シーンにおける ICT の活用方法や、従業員のモチベーションアップの仕掛けなどを「これからのワークスタイル変革 ブックレット」としてわかりやすくご紹介しています。当社はお客様と共にワークスタイル変革に取り組み、豊かな社会の実現に貢献してまいります。



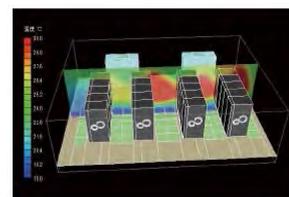
③ ICT のファシリティ環境を環境性・安全性・将来性から最適化提案

環境問題への取り組みは、国・企業に限った問題には留まらず、世界全体の関心事項の 1 つとなっています。現在、地震や停電などへの事業継続対策、電力料金値上げなどへの省エネ・節電対策が加速する一方で、IoT（Internet of Things）の進展に伴い、膨大なデータを蓄積するための設備が拡張傾向にあります。その中で、ICT の安定稼働と省エネの両立を実現するファシリティが重要な役割を担っています。

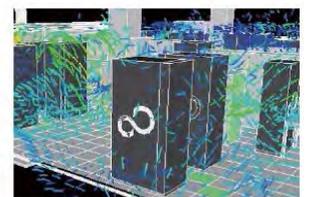
当社が提供する「FUJITSU Sustainability Solution エフサスグリーンファシリティソリューション」では、お客様先のサーバールームやデータセンターをはじめ、ビル・工場にいたるファシリティ環境の課題に対し、現場起点で培ったノウハウと高い技術力で「コンサルティング」「改善工事」「運用改善」「環境監視」を一括提供することにより、最適なファシリティ環境の構築を支援いたします。



《熱流体シミュレーションサービス》



温度分布状況



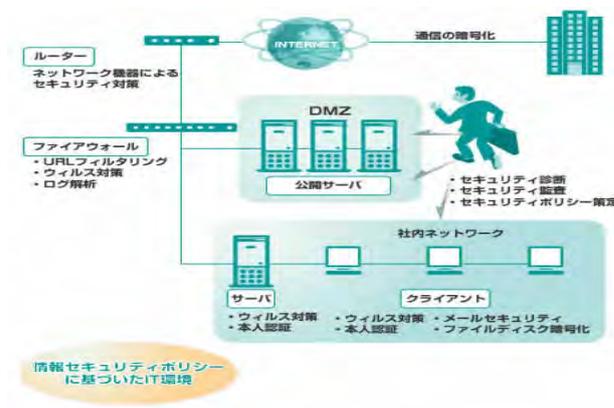
空気の流れ

④ サイバー攻撃の脅威に、ICT インフラを強固に対策

ICT で様々な情報がつながり、オフィスワークや家庭生活がますます便利になる一方で、コンピュータウイルスや不正アクセスの脅威が深刻化してきています。日本の官公庁・企業を標的としたサイバー攻撃は高度化・複雑化しており、2015 年のサイバー攻撃関連の通信は 2014 年の 2 倍以上となる約 545 億 1000 万パケットに達するなど、その脅威が徐々に身近なものになってきています。

当社では、様々なセキュリティの脅威に対応するための網羅的なサービスを用意するとともに、お客様から要望の高い「標的型攻撃対策」「スマートデバイス対策」「システムの不正利用対策」についてはサイバーセキュリティ対策セミナー等を活発に行い、対策の呼びかけも実施しています。

また、富士通総合監視センター（SOC）では各分野のエキスパートが連携し、24 時間 365 日体制でお客様システムを監視、早期異常検知からリモートオペレーションによる初動対応を実施するとともに、オンサイト対応を組み合わせることで、社会 ICT インフラの安全・安定稼働に貢献いたします。



富士通総合監視センター（SOC）

⑤ コールセンター活用で高齢化社会を支える

少子高齢化に直面している我が国において、医療・介護は最も大きな社会課題です。

この社会課題に対し、注目を集めているのが在宅医療です。在宅医療は個人のクリニックで実施しているケースが多く、夜間は医師ひとりで受付から診療まですべてに対応せざるを得ないことから、非常に大きな負担となっています。

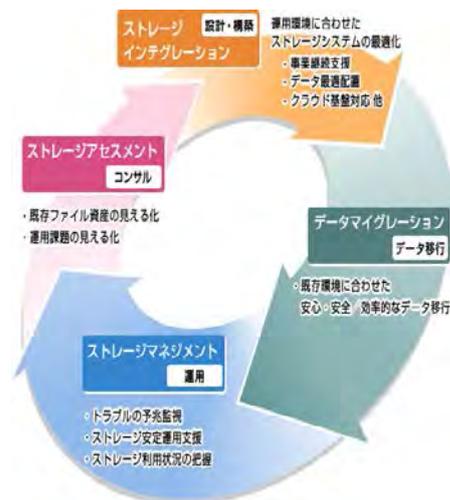
この在宅医療の課題を、ICTで支援し、医療・介護の現場に貢献したい。その想いから、当社では在宅医療支援への取り組みを開始しました。「FUJITSU Intelligent Society Solution 在宅医療支援パック夜間・休日コール受付サービス」は、クリニック・医療法人向けの夜間・休日電話を専門のオペレーターが代わりに受け、内容や緊急度に応じて報告を行うサービスです。



⑥ 事業継続のためのデータバックアップ環境の構築

近年、地震および水害などの自然災害の脅威が懸念され、企業・団体が導入する事業継続計画（BCP）においては、膨大なデータのバックアップ環境と、迅速な復旧体制を整えることが求められております。当社が提供する「FUJITSU Infrastructure System Integration ストレージソリューション」では、ICTインフラの稼働を継続させるために、サーバ管理、ファイルの可視化、拠点間相互バックアップなどを実現し、迅速な業務再開を支援いたします。

当社は、社会が自然の脅威に対する強靱なレジリエンス（回復力）を備えることを支援し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。



⑦ スポーツを通じた地域創生の促進

日本でのスポーツへの取り組みが活性化しており、国際スポーツイベント開催、スポーツ庁設置、スポーツ基本法制定等、国も積極的にスポーツにかかり始めています。競技者育成に加え、医療費高騰への対策、子供の体力向上などにスポーツの活用が期待され、スポーツを契機とした街づくりのニーズも高まってきています。

当社では、地域の皆様と富士通グループ各社との共創により、スポーツの活性化を支援します。例えば、IoTやセンシング技術を用いて一人ひとりの運動状況を数値化し、運動神経を見える化することでスポーツへの興味を引出し、自発的な学習も促すなど、ICTにより新たな学びや集いの機会を提供し、スポーツによる地域振興に貢献いたします。

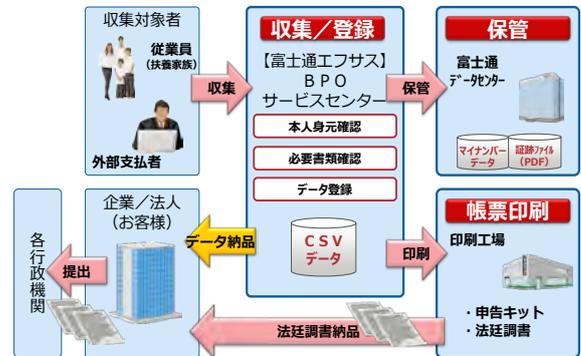
また、スタジアムやアリーナを中心とした街づくりは、地域創生の取り組みとしても注目されています。その地域の中心的な存在として、競技者、住民、観光客などあらゆる人が集まり、安心・安全にスポーツイベントに参加し楽しむことができるよう、当社はこれらの施設のICT基盤整備や運用について、より先進的なニーズへ取り組んで



まいります。社会基盤を支えてきたこれまでの実績・経験を基に、「スポーツを支える一員」として強かに推進いたします。

⑧ 番号制度への全国サービス・サポート体制を整備

社会保障・税制度の効率性・透明性を高める社会基盤「マイナンバー」（番号制度）の施行に向け、行政や民間企業などで様々な対応が必要です。当社は常駐型運用サービス、セキュリティ環境構築・監視・診断サービスを提供した豊富な実績、高度なスキル・ノウハウをベースに、2015年3月に番号制度推進室を新設し、全国約160拠点と一体となり、富士通グループと連携した全国サービス・サポートを提供しています。



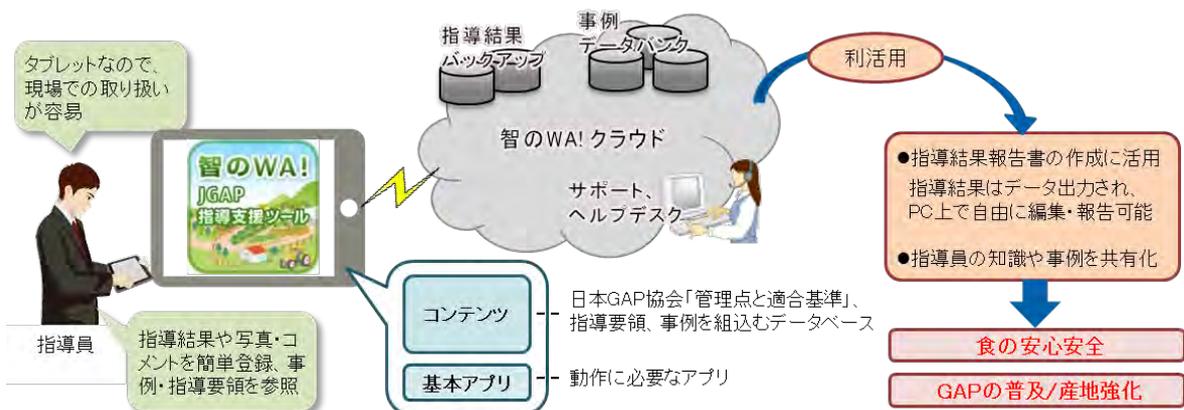
自治体の「庁舎ネットワーク見直し」「自治体中間サーバー等の整備」「特定個人情報保護へのセキュリティ対策」などに対し、LGWAN（総合行政ネットワーク）の導入実績をもとに ICT 面で行政をサポートいたします。また、民間企業が実施する、特定個人情報に関する安全管理措置への厳格なセキュリティ対策についても、番号取得～廃棄までを一気通貫のソリューションで強かに支援いたします。自治体や民間企業の番号収集・登録に関する様々な業務に対するアウトソーシングサービスも提供しており、国民にとって利便性の高い公平・公正な社会の実現に向けた社会基盤「マイナンバー」を多方面からサポートしてまいります。

⑨ 食の安全や環境保全に取り組む農業をバックアップ

国民の共通の願いである「食の安心・安全」。しかしながら、食をめぐる事故は後を絶ちません。

農林水産省が導入を推奨する農業生産工程管理手法の1つにあげられる JGAP (Japan Good Agricultural Practice) は、農家やJAなどの生産者団体が活用する農場・団体管理の基準で、安全な農産物の生産と出荷、環境保全、労働安全と福祉に取り組む農場に与えられる認証です。

認証農場数は年々増加しており、2016年3月現在で約4,000となり、仕入先評価、魅力的な産地ブランド開発など、様々な用途・目的で活用されています。当社では、JGAP 指導員の指導方法や内部監査レベルの均一化、及び指導の効率化を目的に「FUJITSU Intelligent Society Solution 智のWA! JGAP 指導支援ツール」を提供しております。当社は ICT を活用した JGAP 指導や管理、普及を強かにバックアップすることにより、国民が安心して、健康で明るい生活を送ることができる社会づくりに貢献してまいります。



II. 社会に貢献する人財の育成

～「人間成長の経営」を人財育成の理念とし、社員の成長の支援を通じて、
イノベティブな組織風土の実現と顧客・社会の課題解決に貢献する～

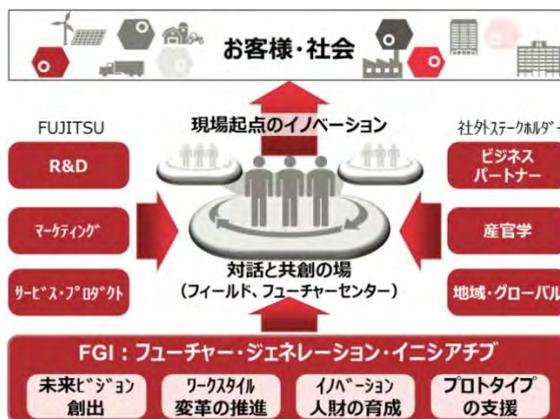
当社において「人」は最も重要な財産であり、「人」の成長こそが最も重要な経営基盤となります。変化の激しいビジネス環境に対応し、高度な技術力を持ち合わせた「変革にチャレンジする人財の育成」を目指しております。また、一方で、従来から当社が大切に守り続けてきた、社会インフラを支え、安定稼働を実現するための品質へのこだわり、ひたむきにお客様起点を追求するマインドを涵養する「未来に伝えるべきエフサス DNA の継承」も継続してまいります。当社は、上記の 2 点を両輪に、現場力を強みとし、お客様と共創できる人財の育成を通じて、お客様の課題・社会の問題を解決することに貢献してまいります。

1. お客様・社会の変革にチャレンジする人財の育成

めまぐるしく変化する社会状況の中で、変革をリードするビジネスリーダーの育成に注力するとともに、一人ひとりが主体として、お客様とともに社会課題を解決する人財育成に取り組んでおります。

(1)現場起点のイノベーションの創出

当社は富士通グループのサービスフロントとしてお客様と共に、お客様自身が気付いていない真の課題を掘み、解決に向けた未来ビジョンを描き、社内外の人・組織・製品・サービスなどのあらゆるリソースを結集して対話と共創を実践しております。そのための場として、各拠点のフューチャーセンターを活用するとともに、対話と共創を円滑に進めるための「共創型ファシリテーター」の育成と、フィールドの全てのエンジニアを対象に、業務可視化技術の強化を図る『創造的課題解決プロセス研修』を展開しています。



昨年度は大学様と共に、先進的な学びに向けて課題抽出を行い、前例のない学習環境をお客様と共創するなど、徐々に取り組みが広がり始めております。今後も共創の実践事例からノウハウ・ナレッジのフレーム化を進め、さらなる共創の場を広げ、お客様・社会に貢献してまいります。

(2)お客様や社会の課題を ICT で解決する高度技術人財の育成

2012 年度から、人事制度と連動した「エフサス・プロフェッショナル認定制度」を開始し、「幹部社員」のキャリアを複線化し、高度な技術力・専門性と深い経験により、技術的難易度の高い課題を解決し、新たなビジネスモデルの創出や高付加価値サービスの提供を実現する人材を認定する仕組みをつくりました。エフサス・プロフェッショナル認定者は、後進指導や組織横断的な活動を通じて、組織・個人の技術力・専門性を高めていくことを目的に、プロフェッショナル・コミュニティに所属して切磋琢磨しています。プロフェッショナル・コミュニティでは、専門テーマ毎の先端技術の研究と実践への応用研究を行い、お客様のビジネスや社会の課題解決を支える技術としてご提案できるように研究を進めております。

さらに、お客様の課題に幅広く柔軟に取り組めるよう、以下のような人財育成にも取り組んでおります。

① サービスマネージャーの育成

システムの設計分野と運用分野のマルチスキルの専門家として 2014 年度から進めております「エフサス・サービスマネージャー」の認定制度では、現在 181 名のサービスマネージャーを育成しており、卓越した ICT スキルをベースに、運用起点でお客様の事業拡大に向けた課題解決に果敢に挑戦し、必要な製品・サービスを組み合わせ、企画・設計・構築・運用・改善を包括的に実施することで、継続的にお客様の課題解決を支えています。

② クラウドインテグレーション技術者の育成

クラウド技術を熟知し、最適化・導入後の統合管理（マネージド）を行い、これからのお客様業務システムと一緒に考え最適な環境をご提案できる、クラウドインテグレーション技術者を育成してまいります。

③ あらゆるニーズに応えるための技術者育成

「マルチベンダーの富士通エフサス」を体現し、お客様のいかなるご要望にもお応えできるよう、外部ベンダーの高度資格の取得を推進しております。特に、VMware 社の VCP、Amazon.com 社の AWS、Microsoft 社の Azure など、デスクトップ仮想化やクラウドの分野で国内トップクラスの技術集団を構成しています。さらに、統合コミュニケーション基盤の最新ソリューション技術者の育成にも力を入れています。

2. 未来に伝えるべきエフサス DNA の継承

豊かな社会を実現する様々な社会インフラの安定稼働のために、以下の取り組みを行っています。

(1) お客様のために全力を尽くすマインドの醸成

社会の公器として企業が果たすべき責任を理解するとともに、思いやりの心を涵養するため、東日本大震災発生以降、新人研修の一環として宮城県の被災地支援活動に取り組んでおります。お客様のために全力を尽くすマインドを醸成し、現場起点での価値創造の重要性を学びます。



地域コミュニティの再生をめざし、花壇整備を実施

(2) 社会インフラを支えるための品質へのこだわり

当社はQMS（品質マネジメントシステム）およびISMS（情報マネジメントシステム）のISO認証を取得し、求められる技術標準に則ったPDCAを遂行するための教育はもとより、お客様に対するサービス品質の強化のために、大規模・中規模のプロジェクト管理／監査のできる技術者の育成と、安定稼働が求められるお客様システムの保守技術力の底上げに注力しております。特に、社会的使命であるミッションクリティカルシステムの安定稼働を担う「エフサス・プロフェッショナル」の認定を今年度から開始し、保守サービスの更なる品質向上と後継者の育成強化を進めてまいります。

(3) お客様資産のセキュリティ脅威への対応

日々変化するセキュリティ脅威から自社システムや情報資産を守るにはバランスが取れた対策の導入と最適状態を維持するための運用作業が重要です。当社では長年の保守で培った豊富な経験と実績に基づき、お客様の安心・安全を共に考えるパートナーとして、迅速かつ高品質なセキュリティサポートをご提供するため、セキュリティ技術者であるセキュリティホームドクターを育成し、お客様に寄り添った対応を実践いたします。

Ⅲ. ダイバーシティ&インクルージョン（多様性の受容と促進）

～異なる経験、異なる視点を持った様々な社員の多様性を最大限に活かしていくことによって、お客様・社会の課題解決・新たな価値創造を加速化する～

当社では、富士通グループの存在意義、大切にすべき価値観、日々の活動において社員一人ひとりがどのように行動すべきかの原理原則を示す「FUJITSU Way」に定める企業指針「社員：多様性を尊重し成長を支援します」と行動規範「人権を尊重します」に則って、性別・人種・国籍・宗教・年齢等の異なる多様な人財が、能力を最大限に発揮できる組織づくりを推進し、社員が互いに多様性を尊重し、成長し続けることで、公私にわたって生活を充実させ、幸福で豊かな人生を実現することを目指しています。

2015 年度に第 1 回のダイバーシティ推進委員会を開催し、多様な人財が現場で能力を発揮しながら活躍し続けられるような施策を検討するため、部門横断的な議論の場として「ダイバーシティ推進 WG」を立ち上げ、人財タイプ別のサブ WG での検討結果を持ち寄り、全社方針の決定を行う委員会への諮問提言を行う体制としております。



当社のダイバーシティ推進体制

1. 人権推進

当社では、人事担当役員を委員長とする人権推進委員会を設置し、社員が、自由闊達で創造性の発揮できる「生き生きと働ける職場づくり」に取り組んでいます。継続的な人権啓発研修の実施として、階層別研修に加えて、2015 年度には、パワーハラスメントの防止をテーマとした、全社員対象のワークショップを開催しました。2016 年度の取り組みとして、研修の実施とともに、グループ会社への人権推進体制の構築を掲げております。

2. 女性の活躍推進

過去 4 年間のダイバーシティ推進の動きの中で、女性同士が人的ネットワークを構築し、相互研鑽を行う土壌は育ってきました。この取り組みを加速するための仕掛けが「FSAS Women Initiative Community」です。

また、2013 年度にスタートした「Women's Leadership Program (WLP)」は、女性リーダーとして職場を牽引していくための意識改革・能力開発に向けたプログラムとして 2016 年度も継続して実施いたします。当社では、現在 12 名の女性幹部社員数を 2020 年に向けて 2 倍にしていこうことを目標に掲げております。

■ ■ 社外ダイバーシティ・プロジェクトへの参画 ■ ■

当社は、2013 年度以降、朝日新聞社が推進する「ダイバーシティ・プロジェクト」への参画をはじめ、「女子大学生向けの就職支援セミナー」でのパネラー参加、週刊誌 AERA への女性幹部社員の登場などを通じて、企業におけるダイバーシティ推進の重要性を訴えております。

2015 年度以降は、日経 BP 社主催の産学連携のプロジェクト「ダイバーシティ&イノベーション フォーラム」に参画し、PBL(プロジェクトベースドラーニング)の理論に基づく学びの場を提供しております。2015 年度は、東京都市大学の 7 名の女子学生が、「学び」をテーマにした新ビジネスの検討という課題のもと、1 か月半のプロジェクトに取り組みました。



当社 Innovation & Future Center での発表会

3. 障がい者雇用の拡大と活躍への支援

当社では、毎年の新卒採用において、5%を目標に積極的に障がい者を受け入れております。2016年7月現在、特例子会社である富士通エフサス太陽株式会社とあわせて、障がい者雇用率は2.32%となっております。

(1) 富士通エフサス太陽の取り組み

当社は、1995年、大分県別府市において、社会福祉法人「太陽の家」との共同出資により、富士通エフサス太陽株式会社を設立しました。ここでは、ATM・パソコン・プリンタの修理作業、当社の社内システム運用受託、メンテナンスマニュアルの電子化や翻訳事業などを通して、障がいを持つ人々に社会参加と自立の場を提供しています。設立21年目を迎えた富士通エフサス太陽は、サービス品質の向上を図りながら、事業領域の更なる拡大を目指すとともに、富士通エフサスと一体となって障がい者の雇用拡大と活躍できる環境の整備を進めてまいります。



富士通エフサス太陽 創立20周年記念

(2) 社外機関との連携による、障がい者雇用推進の支援

当社では、行政機関やNPO、大学からの依頼を受けて、障がい者雇用の推進を支援するため、当社での採用・教育・配属後の職場での受け入れ態勢整備と障がい者の活躍事例の紹介に協力しています。特に、一般企業での就労が難しいとされている重度視覚障がい者の就労の可能性を広げるため、他の企業の人事担当者や障害者支援団体、県の職員や教員を対象にした講演会での講師を務めています。



神奈川県労働局での講演

当社は、障がいの種別を問わずに活躍できる社会の実現を目指し、今後とも障がい者雇用・活躍推進の取り組みを、積極的に進めてまいります。

4. 内なるグローバル化

当社のビジネスも、お客様のグローバル化にともない国境を越えた展開を示しております。「グローバル起点で考え、ローカルに行動する」人財を増やしていくことが、今後のお客様の要望に応えるために必須であると考えております。

グローバル人財の育成に注力するとともに、多様性推進の観点からも外国籍従業員の採用に力を入れております。2016年7月現在、当社の外国籍従業員は28名となっており、新卒採用者の5%を目標としています。

■「ネットワークの分野のプロフェッショナルを目指して」■

私は、中国で医療系の学部を卒業した後、ICT業界を志すようになり、日本へ来てICT系の専門学校で学んだ後、2012年に富士通エフサスにご縁があり、入社しました。

私は、社会貢献をしたい、という想いを強く持っています。私自身が視覚に障がいがあることもあり、同じ障がいがある人たちに便利なものを提供したい、より多くの人に仕事を通じて価値あるものを提供したいと思っています。当社は富士通グループの中でもICTインフラを支える中核企業であり、私の想いを実現するフィールドがあると思ったのが入社を決め手でした。今では、ネットワークの設計・構築を担当するシステムエンジニアとしてシステムの要件定義や提案書・見積書作成、システムの検証、そして現場へ出向いての構築作業やテストなども行っており、日々チャレンジを続けています。



サービスビジネス本部 盧 瑾さん

IV. 地球環境への対応

1. 環境マネジメント

(1)環境活動への取組み

1999年から環境保全活動を推進し、2000年3月国際規格であるISO14001の認証を取得しました。2004年から、富士通グループの「富士通統合EMS」に参加し、「地球温暖化防止」を中心テーマとしてCO₂削減に向けた活動を強化しました。2012年から、当社グループ会社全てに環境活動を展開し、2013年3月に当社グループ会社全てで認証を取得しました。

(2)環境マネジメントシステム

内部監査を、2015年8月～2016年2月の期間で実施し、環境活動の状況及び化学物質、産業廃棄物保管の状況が法令に違反していないことを確認しました。2015年11月9日～11月16日の期間で、株式会社日本環境認証機構の審査を受け、ISO14001の認証を更新しました。



2. 環境教育

富士通グループでは全社員を対象に、社員一人ひとりが、持続可能な社会づくりに貢献、推進していくこと、およびグループの環境行動計画を周知・理解することを目的にe-Learning教育を実施しています。

2016年度は、第8期環境行動計画の初年度であるため10月から新たに環境e-Learningを実施しています。

1. 第8期富士通グループ環境行動計画

「富士通グループ環境方針」のもと、地球環境課題に対する当社のリスク・機会を分析し、具体的な目標として3ヵ年の「環境行動計画」を策定しています。2016年度から新たにスタートする「第8期富士通グループ環境行動計画」では、「ソリューション・サービス、製品による貢献拡大」と「バリューチェーン」を重点テーマとして取り組めます。

重点テーマ

- ソリューション・サービス、製品による貢献拡大
ICTサービス及び製品のエネルギー効率・資源効率の向上により地球環境の持続可能性に貢献。
- バリューチェーンで取り組む
バリューチェーン全体でお取引先やパートナーとともに環境負荷低減活動を推進。

バリューチェーン

調達・製造・出荷・廃棄

調達先 関与会社 2,947 TCO₂e

富士通グループ 897 TCO₂e

お客様・消費者 (ソリューション・製品・サービス利用) 5,178 TCO₂e

富士通グループ自身の上流・下流CO₂e排出量が大きい

(2): パリ協定(COP21)

気候変動に関する国際条約であるパリ協定が2015年12月にフランスのパリで採択されました。パリ協定では、世界の平均気温の上昇幅を2℃に抑える「目標達成に向け、国家だけでなく、企業、市民などあらゆるステークホルダーの協力が不可欠」との考えが盛り込まれています。パリ協定を支持し、先行的に取り組めます。

3. 地球温暖化防止(2) 水

水資源の不足は、地球温暖化防止の重要な課題です。世界的に深刻化しています。富士通グループは、水資源の持続可能な利用を推進し、製品・サービスのライフサイクル全体で水資源の消費削減に取り組んでいます。

製品別水消費量(2015年)

製品	消費量 (m³)
サーバー	1,700
プリンター	3,100
スマートフォン	1,350
ノートPC	1,000
タブレット	900
カメラ	350

3. 環境活動の実績

(1)「FUJITSU Sustainability Solution エフサスグリーンファシリティソリューション」での貢献

2015年9月に国連総会で採択された持続可能な開発目標（SDGs）に富士通グループ全体で取り組んでおり、節電、コスト削減、省エネ法の各種報告資料作成支援、耐震・免震機能に優れた FUJITSU Sustainability Solution エフサスグリーンファシリティソリューションは、

SDGs 目標 13「気候変動及びその影響を軽減」に該当するものです。

2015年はエフサスグリーンファシリティソリューションのお客様への提供により、約 1,000 t の CO₂ 削減を実現することが出来ました。

その結果、富士通グループの環境貢献特別表彰を2012年度より4年連続で受賞しました。



事業を通しての社会貢献での CO₂ 排出削減量は樹齢 50 年のスギの木 71,000 本分に相当

(2)自らの事業活動に伴う環境負荷の抑制 – 気候変動対策の長期目標への貢献 –

2015年12月のCOP21で採択されたパリ行動制約の世界共通の長期目標(平均気温上昇幅を2℃以下)に貢献するため、自らの事業活動に伴う環境負荷低減「CO₂排出量の抑制」を環境目標の中心に捉えて活動しました。

- ・グローバルコミュニケーション基盤の活用徹底
- ・クールビズ、ウォームビズの励行
- ・節電対策の実施による CO₂ 排出削減
- ・化学物質排出量の抑制
- ・フロン排出抑制法の点検実施

その結果 2015 年度排出量を前年から約 350t 削減し、約 5,600t に抑えました。

自らの事業活動による CO₂ 排出削減量は樹齢 50 年のスギの木 25,000 本分に相当

(3)環境保全活動

社会・環境課題の解決に取り組んでいる組織への寄付、 および従業員の環境問題に対する意識向上を目的に、2004年から“書き損じ葉書”・“使用済み切手/使用済みカード類”の収集および“ハートの募金”を行っており、植林用苗木の寄付や財団法人環境再生保全機構を通して NPO などの地球環境保全資金に役立てられています。

植林用苗木の寄付

天候不順による旱魃状態が続くキリマンジャロの地に、2015年度は、富士通エフサスグループ全事務所103ヶ所で活動を実施し、105本分相当の苗木を寄付いたしました。2004年からの累計は1,900本を超えています。

今後も活動を継続し、環境保全に努めてまいります。

《タンザニア・ポレポレクラブより》



苗を運ぶ村人

成長した木々

<p>使用済み切手 1kgで10本の木相当</p>		<p>使用済みカード類 200枚で1本の木相当</p>
<p>書き損じ葉書 2枚で1本の木相当</p>		<p>ハートの募金 環境保全活動に役立てられます</p>

V. ステークホルダーとの対話と協力

1. お取引先と共に

当社は、お取引先と一体となって、お客様へ安心・安全で付加価値の高いサービス、製品の提供を目指していきます。また、お取引先と協業を通じた信頼関係の中、良きパートナーとして持続可能な社会の構築に貢献していきます。

富士通エフサス調達方針

1. お取引先との共存共栄
2. お取引先の公平・公正な評価・選定
3. CSRに配慮した調達活動の推進

(1)グリーン調達の推進

富士通グループでは、地球環境に配慮した企業活動を推進すべく、サプライチェーンで連なるお取引先での環境活動を含め、「富士通グループグリーン調達基準」に基づく取り組みを促進しております。

当社は、これと連動しお取引先へのアンケート調査(調査項目：CO2 排出抑制/削減、生物多様性保全、水資源保全、環境マネジメントシステム(EMS)構築推進)を実施し、環境への取り組みに向けた啓発を行います。

(2)サプライチェーン BCM (Business Continuity Management)の強化

大規模災害など不測の事態においても、お客様が必要とするサービス・製品を安定的に供給するためには、事業継続マネジメント (BCM) 強化が不可欠であるという考えの下、当社は 2012 年度から、お取引先に向けてアンケート調査を実施しており、お取引先における BCM 能力向上を継続的に支援しています。

また、アンケート結果のフィードバック、当社活動の紹介などを通して、ノウハウの伝達、脆弱点の是正指導等、お取引先各社の活動支援を実施します。

(3)お取引先とのパートナーシップの強化

お取引先との定期的な会議、協業を通じて、長期的な信頼関係のもと共に繁栄できる関係を構築します。

①富士通サービスパートナー会議の開催

富士通サービスパートナー会議を富士通株式会社とともに開催し、サービス・メンテナンスビジネスに関する富士通グループとしての活動方針の展開や、パートナー様の様々な取り組みを相互に共有するなど、サービスパートナー様と共存共栄に向けた関係強化に努めています。

②サービス・サポート品質改善活動

お取引先も含めた共通のサービス品質指標「SQM (Service Quality Management)」を設定し、お客様起点のサービス品質を可視化しています。また、サービス・サポートにおける基本行動の遵守、メンテナンス作業のミス撲滅を図る「MQC (Maintenance Quality for the Customer) 活動」では、エフサス各地区担当部門と地域のお取引先が一体となり、ヒヤリハットやミスの発生を分析、現場から全国への再発防止策を発信しています。

なお、これらの活動でお取引先の優れた活動は、積極的に表彰するなど、情報共有と最適な価値・サービスの提供を、お取引先と一体となって進めていきます。

■ 都築テクノサービス株式会社

取締役 内藤市郎様

データセンターやクラウドサービス利用など、お客様システム環境が変化する中、お客様との関わり方やお客様が求めるサービスが多様化しています。全国均一の保守品質に向けて活動する一方で、個々のお客様期待に添えられる新しい品質定義や保守スタイルも重要になってきています。

お客様と接する現場として我々パートナー各社も課題や知恵を出し合い、品質向上に向けてともに挑戦しています。



2. 国際・地域社会と共に

当社は、国際社会および私たちが暮らす地域社会への貢献を通じて、より良い社会の実現に向かってさまざまな取り組みを行っております。将来を担う子供たちの教育環境の整備やポリオワクチン接種への貢献等の発展途上国への社会貢献や文化・スポーツイベントへの協賛、障がいを持つ方々の社会参画への支援等、グローバル企業市民であるとともに、地域社会に根ざした活動として、広がりを見せています。

(1)国際貢献

① ラオスの学校教育支援（富士通エフサス労働組合との共同活動）

当社は、富士通エフサス労働組合と共にラオスの小学校教育支援に取り組んでいます。これまでに、小学校2校を寄贈し教育環境を整えました。また、貧しさから小学校に通うことができない子どもたちにも教育の機会を提供できるよう、奨学金による支援を行っています。子どもたちの健康維持制度を作り、健康診断を行うなど健康面でのサポートも開始しています。2012年11月には、この功績を讃えラオス教育体育省から労働勲章を授与されています。

また、当社創立25周年記念事業として、カムアン県ケンムアン村に新たに中学校を建設し、2015年7月に竣工いたしました。日本企業による中学校の建設は初めてのことで、2015年11月に寄贈式を行うとともに、エフサス労働組合主催のスタディツアーを行い、現地での大歓迎を受けました。



ケンムアン村中学校の校舎



ケンムアン村中学校寄贈式典

② 発展途上国の子供達の支援 “世界の子供にワクチンを”

この活動は、2011年より富士通グループで廃棄する機密文書を回収している「JSR-NET」様が、ペットボトルのキャップと混載することで、無償で運搬してリサイクル業者に売却し、その売却額の全額を寄付するという善意の輪で形成されています。当社では武蔵小杉本社オフィスを中心に、現在27事業所でこの活動を行っております。2015年度は915kgのエコキャップを回収し、ポリオワクチン915人分（18,300円。1kg=1人分/@20円）に貢献しました。2016年も引き続き、活動範囲を拡大し、更なる支援を図ってまいります。



(2)地域貢献

① スポーツイベント協賛

本社のある川崎市との関わりを強化するため、2014年度より、川崎市主催の「川崎国際多摩川マラソン・駅伝」に協賛しており、当社社員も多数参加しています。



3月リバーサイド駅伝 総勢 102名が参加！

② 芸術イベント協賛

2014年は会社創立25周年事業として、クラシックコンサートへの協賛（横浜みなとみらい・西宮）、また2015年は、横浜市アーツフェスティバルのDance Dance Dance@YOKOHAMA 2015に協賛し、ラオス大使館協力のもと、「ラオス舞踊」を総勢75名で行いました。

2016年度は、「横浜音祭り」に協賛いたします。



Dance Dance Dance@YOKOHAMA 2015
総勢75名（大使館5名、留学生4名含）参加！

③ 地域コミュニティへの参画

当社は、地域の皆様への日頃の感謝を示すとともに、当社への理解を深めていただくため、祭、花火大会といった地域イベントなどに参画し、積極的に地域コミュニティとの交流を図っています。以下は、当社が協賛・参加した祭の一例です。



阿波踊り（徳島県）



青森ねぶた祭（青森県）

④ 地域に密着した社会貢献活動

富士通エフサスグループでは社員一人ひとりが地球環境の大切さを認識し、美しい地球環境を次世代へと受け継いでいくために「地域貢献活動」、「自然環境保全」を柱として、地域社会に貢献しています。2015 年度は、当社グループ会社も含め全国 103 拠点で 174 回実施しました。下記に活動の一端をご紹介します。



8月23日 富山
ふるさと富山美化大作戦
＜富士通エフサス北陸カスタマサービス(株)＞



6月28日 神戸
須磨海岸クリーン作戦
＜富士通エフサス関西カスタマサービス(株)＞



5月31日 佐賀
県下一斉ふるさと美化活動
＜エフサス佐賀支店＞



6月5日 高知
地域早朝一斉清掃活動
＜富士通エフサス四国カスタマサービス(株)＞



9月16日 名古屋
下園公園清掃活動
＜富士通エフサス東海カスタマサービス(株)＞



5月26日 小杉
事務所周辺清掃活動
＜富士通エフサス・クリエ(株)＞



10月21日 大阪
大阪マラソンクリーンアップ作戦
＜富士通エフサスシステムズ(株)＞



9月27日 旭川
ごみのポイ捨て禁止運動
＜エフサス旭川支店＞



3月18日 前橋
事務所周辺清掃活動
＜富士通エフサス東日本カスタマサービス(株)＞



11月6日 新神田
神田明神周辺の清掃活動
＜富士通エフサス・カスタマサービス(株)＞

(3)障がい者支援

① 社会福祉法人「太陽の家」への協力

社会福祉法人「太陽の家」は、故中村裕博士の「障がい者は仕事をもち自立することが最も必要である」という信念、「保護より機会を」「世に身心（しんしん）障がい者はあっても仕事に障がいはいり得ない」という理念の下、1965年に大分県別府市に設立されました。

太陽の家では、当社、オムロン・ソニー・ホンダ・三菱商事・デンソーなどの企業と提携して共同出資会社をつくり、多くの重度障がい者を雇用しています。障がい者の作業環境の改

善や治工具・自助具の導入を進め、障がい者の職能を開発し、手作業からライン作業、単純作業から熟練作業や頭脳労働など多くの成果を上げています。2015年10月には創立50周年記念式典が開催されました。

当社は、太陽の家の経営理念に賛同して、「太陽の家」訓練生の受入や、訓練施設への作業依頼、地域住民も参加可能なパソコン教室へのパソコン寄贈などを行い、施設運営に協力しています。



創立50周年記念式典にて頂いた感謝状

② 大分国際車いすマラソン協賛

「大分国際車いすマラソン」や、「九州パラリンピック」等の障がい者参加のスポーツイベントについても、引続き協賛を行い、スポーツを通じての障がい者支援を推進してまいります。



大分車いすマラソン

③ 武蔵野東学園様との交流と支援

武蔵野東学園様は、「心と体の健やかな子供を育てたい」という親の願いそのままを教育の原点として創立された私立学園です。学園の最大の特徴は、健常児と自閉症児の「混合教育」と、自閉症児への愛と根気による独自の教育「生活療法」の実践です。1987年には米国ボストンに姉妹校が設立されています。

当社は学園の教育理念に賛同し、2014年の学園創立50周年の際には寄付、パソコン寄贈を行いました。また、自閉症児童が描いた絵画を当社事業所(武蔵小杉本社、みなとみらい Innovation & Future Center、銀座G-7ビルオフィス、大宮オフィス)に展示させていただいており、各拠点で絵画見学会を開催し、作者の児童とご家族をオフィスに招待するイベントを行い、交流を深めています。



児童達の絵画展示(当社 武蔵小杉オフィス)

(4)東日本大震災 復興支援活動

2011年3月11日に起こった東日本大震災は大きな爪痕を残しました。当社は、お客様システムの安心安全を守るため、これまで本業を通じて復旧・復興に力を尽くすとともに、防災減災に向けたご提案をまいりました。その一方で、社会貢献活動の一環として以下の事項に取り組んでおります。

① 桜並木植樹への協賛（さくら並木プロジェクト）

2016年3月1日、東日本大震災で津波被害にあった地域に桜の木を植樹する活動をしている「NPO 法人さくら並木ネットワーク」に協力し、宮城県七ヶ浜町に合計8本の桜を植樹、14本の苗木を寄贈しました。今年で二回目となるこの活動は、津波の最高到達地点付近を中心に植樹を行うことで、津波の記憶をとどめ、避難の目安になることを示すとともに、桜の開花で地元にも明るい話題を取り戻すきっかけになることを目指しています。



七ヶ浜町「多聞山」への桜の植樹を行う今井顧問と青木執行役員常務

② 宮城大学復興支援コンサート

2015年12月20日に、宮城大学様主催による合唱団・管弦楽団のコンサートが開催され、当社が協賛いたしました。

この楽団は、地域の方、県内の高校生・宮城大学の学生・教職員の皆さんで結成されています。震災からの復興を祈念し、オーケストラの生演奏のベートーヴェンの「第九」が力強く会場に響き渡りました。



大和キャンパス大階段特設ステージでの合唱団と管弦楽団の演奏

③ 新人による復興未来プログラム

富士通エフサスでは2015年9月～10月にかけて、新入社員109名が宮城県石巻市の復興支援活動を行いました。現場の状況および復興支援の重要性を理解すると共に、社会的課題に対して、個人としてどう向き合うのか、富士通エフサスとして何ができるのかを考える良い機会になりました。2016年度は被災地から未来を考える復興未来プログラムとして実施を計画しています。また、富士通エフサスグループにおいては、2016年6月に富士通エフサスシステムズ17名、富士通エフサス・クリエ4名の新入社員が参加し、復興支援活動を行いました。富士通エフサスグループ全体として社会貢献活動を拡げています。



富士通エフサス 2015年度新入社員の復興支援活動

マネジメント

I.コーポレート・ガバナンス

当社は、コンプライアンス推進やリスクマネジメント体制作りを含めコーポレート・ガバナンス強化に努めております。具体的には、富士通株式会社と同様に、経営の監督機能と執行機能を分離する「執行役員制度」を制定し、意思決定の迅速化・経営責任の明確化を図っております。

また、富士通株式会社のビジネスグループにおいて当社の属するグローバルインテグレーションサービス部門の関係者が当社の役員として経営に参画しているほか、四半期ごとに関係者によるステアリングコミッティを開催しております。

また、取締役会における「内部統制体制の整備に関する基本方針」を定めているほか、富士通グループの方針に従い、内部統制の運用評価テストを実施し、日々改善に努めております。

さらには当社グループ9社においても、内部統制の自主評価として、運用評価の確認を毎年実施しております。

II.コンプライアンス

当社は、富士通グループの一員として、コンプライアンス意識を浸透させるため、様々な活動に取り組んでおります。社会における富士通グループの存在意義、大切にすべき価値観、日々の活動において社員一人ひとりがどのように行動すべきかの原理原則である「FUJITSU Way」を基本に、FUJITSU Wayの行動規範をさらに詳細化したガイドラインである「Global Business Standards」、当社の企業理念体系である「富士通エフサス CI コンセプト」、FUJITSU Wayを具体的にした当社独自の指針である「FSAS コンプライアンスガイドライン」を制定しております。

また、社内ホームページにおいては、FSAS コンプライアンスガイドラインに規定する内容につき、詳細な解説や関連資料などを掲示することで、日常活動の中で生じた疑問点を社員自身が調べられるように情報提供をするとともに、ガイドラインの相談窓口も設置しております。

さらに、コンプライアンス問題を未然に予防するために、リスク・コンプライアンス委員会の小集団活動として当委員会のWGを設置し、日々変化する外部環境・状況を踏まえた対策検討・社内展開を実施しております。

併せて、コンプライアンス違反を発見した場合の報告先として、社内外に「コンプライアンス通報・相談窓口」を設置し、コンプライアンス違反の早期発見に努めております。

上記のような制度・体制のほかに、社員への啓発・教育活動として、新入社員や中堅社員・幹部社員の昇格者に対するコンプライアンス教育を実施しております。

III.リスクマネジメント

当社は、事業活動において発生する様々なリスクを迅速・的確に把握し、リスクインシデント発生時の影響の最小化、および再発防止に向けて体制を構築しております。

具体的には、当社の事業活動分野別の報告ルートを整備しているほか、全般的なリスクインシデント報告基準を作成し、インシデントを認識した部門から社長を委員長とするリスク・コンプライアンス委員会、および富士通に対しタイムリーに報告するよう規定し、当社のみならず、富士通グループ全体でリスクマネジメントを行えるよう、体制を整えています。

また、報告を受けた委員会事務局のメンバーをはじめ、即座に関係者が対応を行い、リスクインシデントの最小化や再発防止策の策定・社内における共有化を行っております。

さらに、経営層の集まる会議体における月次報告のほか、取締役会においても報告を実施し、リスクマネジメント意識・危機感の共有化に努めております。

IV. 情報セキュリティ

当社の事業活動においては、広範なお客様情報を取扱いますが、そこから発生する情報漏えいリスクを未然に防止するため、情報セキュリティ対策を適切かつ確実に実施しております。

- ・セキュリティに関する各種規程の整備
- ・情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS: Information Security Management System）の国際規格「ISO27001」を製品保守、サービス部門にて取得
- ・Pマーク（JISQ15001）の取得
- ・全社員を対象に毎月セキュリティチェックデーを設けてセキュリティの基本ルールを確認
- ・e-Learning やビデオによるセキュリティ教育といった啓発・教育活動の実施
- ・社給パソコン等が社内のセキュリティポリシーを満たしているか確認を行うセキュリティツールの導入によるシステム管理



以上のことを行うことにより、セキュリティの重要性を常に認識し、行動できる環境整備に努めております。

また、2010年12月には、運用サービスを提供するセンター部門において、情報セキュリティ格付け会社であるISレーティング社の格付けを取得し、現在では「AA+」のランクとして、より強固な情報セキュリティ環境でのサービス提供を行っています。



V. 自社の事業継続マネジメント活動

当社は、お客様のICTインフラに対する保守サービス事業において、富士通株式会社とともに、事業継続マネジメントシステム（BCMS: Business Continuity Management System）の国際規格「ISO22301」の第三者認証を2012年8月24日に世界で初めて取得しています。

また、近年、コーポレート部門、インフラインテグレーションサービス部門等に事業継続マネジメント活動を拡大し、特定非営利活動法人 事業継続推進機構（以下、BCAO）が認定する「BCAO アワード 2015」にて、「優秀実践賞」・「人づくり・訓練賞」の2つを受賞しております。

株式会社富士通エフサス

お問い合わせ先

経営企画室

〒211-0012

神奈川県川崎市中原区中丸子 13-2 野村不動産武蔵小杉ビル N 棟

<http://www.fujitsu.com/jp/fsas/>

TEL:0120-860-242

FAX:044-434-5040 (経営企画室)